

[特集]薬剤耐性菌の基礎知識

薬が効かないって本当!?

薬剤耐性菌

のリスク

ぜ〜んぜん効かないよー♪

冬は寒だけでなく、さまざまな細菌感染症が流行しやすい季節です。細菌感染症になると抗生剤を服用しますが、この抗生剤が効かない「薬剤耐性菌」が存在します。今回はその「薬剤耐性菌」のリスクと、私たちにできることをお伝えいたします。



薬剤耐性菌とは?

抗生剤(抗生物質)を使い続けていると、細菌の薬に対する抵抗力が高くなり、薬が効かなくなったり、その抗生剤が効かない細菌が増えてくる場合があります。このような薬への耐性を持った細菌のことを「薬剤耐性菌」といいます。



薬剤耐性菌が原因で世界で70万人が死亡

薬剤耐性菌が原因で世界では約70万人、日本国内では2017年に約8千人以上が死亡したとの報告があります。近年、薬剤耐性菌の世界的増加が指摘されてきましたが、日本でも深刻な影響を及ぼしていることが明らかになり、抗生剤の適正使用など対策の徹底が求められています。

薬剤耐性菌が増えることでの影響

影響1

細菌感染症の病気が治りにくくなる

病気に効果が見込まれる薬の種類が少なく、適した治療に時間がかかる。

影響2

さまざまな医療が困難になる

抗生剤が効かないと細菌感染症の予防や治療が難しくなり、さまざまな医療を安全に行えなくなってしまう。



! 乳幼児や高齢者、持病がある人など、免疫力の弱い人が特に危険に!

免疫力の弱い乳幼児や妊婦、高齢者、また、持病を持つ人は、細菌感染症にかかると重症化しやすいです。そのため、薬剤耐性菌が広まり使用できる抗生剤が減ると、特に治療が難しくなります。



今からできる! 薬剤耐性予防

1 抗生剤は医師や薬剤師の指示通り、服用期間・服用量を守って飲む

- 勝手に途中でやめない
- 服用する量や回数を変更しない

2 抗生剤をとって置いて後で飲まない

- 以前に処方された抗生剤が残っていても、自己判断で飲まない

3 抗生剤をあげない、もらわない

- 同じ症状でも他人へ渡さない、受け取らない



まずは感染しないことが重要!

まずは細菌感染症にならないことが大切です。感染予防のため、日ごろから手洗いの徹底やアルコール消毒、マスクの着用、うがいなどを継続することが大事です。忙しい日々の中でも休養をとり、健康に気をつけましょう。

(監修:内科 高橋 泰)